

論文内容要旨

論文題名 水銀感作率の推移に関する検討

掲載雑誌名 昭和学会雑誌 (第 80 巻・第 1 号・29-34 頁・2020 年)

専攻名 内科系皮膚科学 氏名 平野由似

水銀は第 12 族元素に属している原子番号 80 の元素で、常温・常圧下で固体にならない唯一の金属である。感作能を有し、水銀体温計破損後に全身性接触皮膚炎と称される特有の皮疹を生じることが知られている。水銀の感作率および感作の原因を検討する目的で、29 年間のパッチテスト結果を検討した。1990 年 3 月より 2018 年 6 月までに昭和大学病院附属東病院、横浜市北部病院、藤が丘病院の皮膚科外来を受診し、パッチテストを施行された 1683 名(男 355 名, 女 1328 名, 平均年齢 44.7, SD±18.8 歳)を対象とした。パッチテストは 0.05%塩化第二水銀水溶液試薬を背部健常皮膚に貼布し、2 日後に除去した。判定は ICDRG (International Contact Dermatitis Research Group)基準に基づいて貼布 2, 3 日後 (1990 年 3 月~2010 年 3 月), 貼布 2, 3, 7 日後 (2011 年 4 月~) に施行し、前者は貼布 3 日後, 後者では貼布 7 日後に+~+++と判定された者を陽性とした。陽性反応は 130 名に認められ, 陽性率は 7.7%であった。陽性者の平均年齢は 37.8 歳で, そのうち 30 歳未満が 41%, 61%が 40 歳未満で, 水銀感作は低年齢で成立していると考えられた。低年齢で接触しうる水銀含有物としてワクチン内のチメロサル, 水銀体温計, 歯科金属のアマルガム, 消毒薬のマーキュロクロム, 朱肉を考えた。チメロサルについては塩化第二水銀と同時にパッチテストを施行された 136 名中, 両者に陽性反応を示した例は認められなかった。水銀体温計は破損しなければ水銀に暴露されない点から感作原になった例は多くないと推察した。この両者とアマルガムは同様に用いられていたはずの欧米諸国における水銀感作率が低い点からも感作原として否定的であった。したがって水銀の感作はマーキュロクロムや朱肉により経皮的に成立した可能性が高いと考えた。施行時期別では 1990 年代には 13.3%であった陽性率が, 5.4%(2000 年代), 4.8%(2010 年~) と低下したが, これは 40 歳以下における陽性率の著明な低下によるものであった。このように水銀の感作率は低下傾向にはあるが, スタンダードシリーズに含まれている他のアレルゲンの陽性率と比較すると決して低いとは言えず, 本邦では引き続き重要なアレルゲンとして扱う必要があると考えられた。長期間にわたって十分なサンプルサイズで行われた研究であり, 水銀感作に関する新知見を与えるものと考えられる。

